指導と評価の計画（１２時間完了）　対象学年：中学校３年生　　対象単元：球技（ネット型・バレーボール）　【鳴海中・浅野慶二】

時間＼時数	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12
5	１　場の準備、集合、整列、健康観察					１　場の準備、集合、整列、健康観察						
10	２　準備運動　肩や膝、足首等の主に動かす部位をほぐす ３　基礎的な動きづくり・ボールタッチ 【基礎的な動きづくり・ボールタッチにおける個別支援】 ・　素早く動き始めるための体勢がとれていない　→　「膝を軽く曲げて、重心を落として準備しよう」 ・　ボールタッチ（オーバー・アンダー）がうまくできない　→　「去年までに学習した動きを思い出そう」 「オーバーは、手首を背屈させて準備しよう」「アンダーは、肘を曲げずに膝を曲げて準備しよう」					２　準備運動 ３　基礎的な動きづくり・ボールタッチ 【基礎的な動きづくり・ボールタッチの練習における個別支援】 ・　体をボールの方に向けて準備姿勢を取る　→　「目だけでなく、目とへそをボールに向けよう」						
15		４　本時の目標を知る ５　前時の振り返りと本時の課題の確認 ・　提出したロイロノートスクールのワークシートを見て、前時の振り返りと本時の課題を確認する。 ・　チームメイトの本時の課題を共有する。				４　本時の目標を知る ５　前時の振り返りと本時の課題の確認 【前時の振り返りと本時の課題の確認における個別支援】 個別支援　・　生徒が決めた課題と教師評価の課題がズレる →　前時に出された課題等が的確か確認しておき、次時の課題設定に向けて授業中に声掛けをする						
20	４　オリエンテーション ・単元を貫く問い 「仲間とともに、ボールをキャッチすることなくつなぎ、相手コートの空いた場所にボールを落とすために必要なことを考えよう」 ・安全面の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 ・ルーブリックの確認	６　ゲームⅡ 【ゲームⅡ　ルール等】 人数：4対4（1チーム6人） ネット：高さ210cm コート：バドミントンコート拡大 ファーストキャッチ可、触球回数3回以内、手投げサーブ	６　戦術に応じたチーム内練習 【戦術に応じたチーム内練習】 戦術を考える際には、３つの着眼点で攻撃方法を考える ①プレイの参加人数　②攻撃する場所　③攻撃のテンポ ※　①から③でチームの動きを整理することで、戦術を考えることにつながることを指導する。			６　戦術に応じたチーム内練習 【チーム内練習における全体支援と個別支援】 全体支援　・　戦術を意識した練習になっていない　→　「ゲームの中では、どんな攻め方をするつもりでいるのか、チームの全員が理解できているか確認してみよう」 個別支援　・　目だけボールの方にを向けて準備姿勢を取っていて、素早くボールに反応できていない →　「目だけでなく、目とへそをボールに向けよう」						
25			７　ゲームⅠ		７　ゲームⅣ 【ゲームⅣ　ルール等】 人数：4対4（1チーム6人） ネット：高さ210cm コート：バドミントンコート拡大 原則、キャッチ不可、触球回数3回以内、手投げサーブ ノーキャッチでの返球がダイレクトで相手コートに入った場合は、3点（サーブの得点は除く）、それ以外のプレイは、全て1点。 個別支援のためのルール ①　キャッチプレイヤー ②　守備範囲の縮小 個別支援のためのルールの効果 ①　キャッチプレイヤーとなることで、ボール操作の不安がある生徒も、動きに挑戦することができる キャッチプレイヤーとなることで、考えて練習に取り組んだ戦術をゲームの中で試そうとすることができる ②　第1触球者になる不安を取り除くことで、第2・第3触球者の動きに集中して挑戦することができる	７　ゲームⅣ 【ゲームⅣにおける全体支援と個別支援】 全体支援 ・　ボール操作の成否だけが話題になり、どのような戦術で攻めたいかが共通理解できていない →　「キャッチプレイヤーがボールを持ったときに、どのように攻める（動く）のか伝え合おう。」 ・　ゲーム間の話合い（振り返り）で、個々やチームの課題に対する話題にならない →　「今のゲームでうまくできたことや課題となった場面を上げてみよう。必要に応じて、評価活動の結果（チェックリストの変容）やタブレットで撮影した動画を見ながら、チームのプレイを振り返ろう。その上で、自分の課題を解決することがチームの貢献につながるのか考えよう。」 ・　キャッチプレイヤーを活用することはできるが、素早い攻めができずに相手の守備が整ってしまっている →　「キャッチする時間が短くなれば、相手が準備する時間を奪うことができるね。そのためには、事前にどんなことを決めておくと良いのか、考えてみよう」 個別支援 ・　自分で設定した課題が意識できず、漠然と（消極的に）取り組んでいる →　「どのような課題でしたか。」「どの個別支援のためのルールを使えば、課題を意識して取り組めるかな。」 ・　課題の動きはできているが、ボール操作がうまくできずに課題解決の手応えを感じられていない →　「課題の動きはできるようになってきている。自信をもとう」 ・　課題の動きは合っているが、動きの感覚がつかめていない →　「感覚づくりの運動で、動きの感覚がつかめるようになろう。次回の練習を変えてみよう。」					７　リーグ戦	
30	５　ゲームⅠ 【ゲームⅠ　ルール等】 人数：4対4（1チーム6人） ネット：高さ210cm コート：バドミントンコート拡大 キャッチ不可、触球回数3回以内、手投げサーブ	７　ゲームⅢ 【ゲームⅢ　ルール等】 人数：4対4（1チーム6人） ネット：高さ210cm コート：バドミントンコート拡大 セカンドキャッチ可、触球回数3回以内、手投げサーブ										
35	単元を通して必要な動き （本単元の技能の学習内容 ＝身に付けたい動き） ★　攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さと位置にボールを上げる ★　ボールに触れるだけでなく、連携プレイのために必要な位置に動くことができる ★　連携プレイのために必要な動きやボール操作をすることができる											
40		８　身に付けたい動きとボールのつなぎ方の確認	８　身に付けたい動きに対する自己の出来映えや課題の確認								８　単元のまとめ	
45	・　本時のまとめ 目標に迫ることができた生徒に発言させ、教師が目標についてまとめる。 ・　本時の振り返りと次時の課題の設定 ロイロノートスクールのワークシートに、本時の取組についての振り返りと、次時の課題を設定させて提出させる。					【本時の振り返りと次時の課題の設定における全体支援と個別支援】 全体支援　→　単に事象だけを記載するのではなく、根拠や原因も合わせて書かせる 個別支援 課題が曖昧になっている　→　「あれこれ一度にやろうとせず、自分が改善した内容を一つ選んでみよう。」						9　単元の振り返り
50	・　整理運動　　・　片付け											

評価の重点										
知		（ワークシート・発言内容）		（ワークシート・動きの観察）			（動きの観察）	（動きの観察）	総括的な評価	
思			（ワークシート・発言内容）		（ワークシート・発言）					
態	（動きの観察）					（動きの観察）				

単元末に期待される具体的な生徒の姿

ゲームⅣにおいて、キャッチプレイヤーや守備範囲の縮小といった個別支援のためのルールを利用して、ボール操作が苦手な子もゲームに貢献できるようになってきた。そして、仲間からパスの仕方を教えてもらい、ボールをキャッチしないでつなごうとするようになってきた。おとりを利用して攻撃をするといったチームの戦術に対して、セッターがうまくトスアップできるように、個別支援のためのルールのキャッチプレイヤーを利用して、トスアップの感覚をつかみ、その後、ボールをキャッチしないでトスアップして、おとりをうまく利用して攻撃ができる場面が増えてきた。次は、もっとおとりを利用して攻撃できるようにしたい。